

質の違う国立公園の例

		瀬戸内海国立公園	知床国立公園
指定年		昭和9年3月16日	昭和39年6月1日
土地所有		(国有地) 11.8% (公有地) 16.0% (民有地) 72.2%	(国有地) 93.7% (公有地) 2.0% (民有地) 4.3%
陸域面積		66,934ha	38,633ha
海域面積		851,000ha	22,400ha
特別保護地区の割合		1.4%	60.9%
IUCNカテゴリー		(Protected Landscape / Seascape)	(National Park)
区域内居住者数(H7)		11万人	265人
年間利用者数(H15)		3877万人	225万人
提供するサービスの例	生態系	マツ林等の二次的自然環境	陸海域が一体となった原生的な生態系・生物多様性
	代表的な動物	ニホンザル	ヒグマ、シマフクロウ、オジロワシ
	人文景観	ミカン畑、巖島神社・金比羅社寺、四国八十八箇所等と自然環境が折り重なる人文景観	
	海域景観	白砂青松、内海多島海景観の保全	海食崖、流水等の海域景観保全
	歴史文化	歴史上の著名な出来事の舞台となった箇所多数(壇ノ浦等)	
	利用(観光)	海域景観の展望利用等	知床半島の原生的な自然環境の展望利用の提供
	利用(山岳)	六甲山へのハイキング等	羅臼岳、知床連山などへのウィルダネス的登山利用
	利用(温泉)		自然湧水地の保全等による温泉利用の提供
地域振興	地域振興の手段として影響力小:国立公園の利用を通じた公園内・周辺地域の宿泊・観光利用の推進(他の大きな産業活動が多い。)	地域振興の手段として影響力大:世界自然遺産・国立公園の利用を通じた周辺地域の宿泊・観光利用の推進(漁業以外に大きな産業活動はない。) 地域ブランドを活用した漁業生産物等の地元製品の販売促進	